

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

『チーム光陽!』をスローガンに、児童生徒一人ひとりの障がいの状況等に応じた専門的な教育を行うことにより、自分の願いや思いを表現する力と社会に参画する意欲を育てる学校。

- 1 主体的な学びを大切にできる学校
- 2 安全で安心できる学校
- 3 地域に開かれた学校
- 4 チームで協働できる学校

2 中期的目標

1 主体的な学びを大切にできる学校

- (1) 児童生徒の実態を的確に把握して個別の指導計画を作成し、日々の授業に繋げる。
- (2) 学習指導要領の改訂を見据え、教育課程を編成する。
- (3) 自立活動における指導の充実を図る。
- (4) ICT 機器を活用し、コミュニケーション力の育成を図る。
- (5) 教育活動全般において、命の大切さや自他を思いやる心を育て、自尊感情を高める。

※平成 30 年度には保護者向け学校教育自己診断で、「学校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。」の肯定的回答率 80%以上をめざす。

2 安全で安心できる学校

- (1) 保護者、地域関係機関と連携した防災マニュアルの継続的な検討を進め、その対策を検討する。
- (2) 常に「いのち」を意識した教育活動を行うよう危機管理意識の向上を図り、重大事故 0 に備える。
- (3) 個人情報 を適正に管理する意識を高める。
- (4) 施設設備面、労働安全面の課題について共通理解を図り、改善に努める。

※平成 30 年度には保護者向け学校教育自己診断で、「学校は子どもの安全配慮に努力しているか。」の肯定的回答率 85%以上をめざす。

3 地域に開かれた学校

- (1) インクルーシブ教育の推進に向け、地域のセンター校として組織的な支援体制を整備し、地域の学校園へ情報発信する。

※平成 30 年度には、HP 来校者数を平成 28 年度の 1.5 倍をめざす。

4 チームで協働できる学校

- (1) 教職員一人ひとりが自己の果たす役割を意識し、個々の良さや強みを活かした活気ある学校をめざす。
- (2) 教職員一人ひとりが「学び続ける」意識をもち、より高い専門性に基づいた教育をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>○保護者、教職員を対象に実施。 保護者の回答率は 75%となり、前回の 77%をやや下回った。今後積極的に呼びかける等改善の必要あり。</p> <p>【主体的な学びを大切にできる学校づくり】について ・「子どもは学校へ行くことを楽しみにしている」「学校は、教育方針をわかりやすく伝えている」「学校は、保護者のニーズを踏まえた教育活動に取り組んでいる」「学校は、子どもの障がいについてよく理解している」等、本校教育活動に対する評価は概ね 90%の肯定的回答があり、理解をいただいているものと思われる。</p> <p>【安全で安心できる学校づくり】について ・「学校からは、地震や台風などの対応について行動マニュアルが知らされている」「学校は、施設・設備の点検、事故防止に配慮している」といった設問に対しては、65~70%と、数値上は達成に至っていない。努力の余地はあると思われるが、その状況を発信している HP の閲覧状況が、昨年よりも多数更新しているにもかかわらず悪く（関係設問の肯定的回答率 27%）、非常に残念である。「学習の内容・学校生活の様子を懇談や学年だより、学級だより、連絡帳などによって知ることができる」という設問は 88%が肯定的回答であるのと対照的である。今後更なる呼びかけにより改善したい。</p> <p>【地域に開かれた学校づくり】について 「学校は、保護者や地域の人たちから意見を聞く機会を持っている」については 79%と概ね肯定的であるが、本校の地域支援の取り組みについては先進的なものもあり、上記と同様、更に情報発信に努めたい。</p> <p>【チームで協働できる学校づくり】について ・「学校は、日常の教育活動において、子どもの人権を十分に尊重している」88%、「個別の教育支援計画について、本人・保護者のニーズを踏まえて作成されている」95%の肯定的回答があり、全教職員が子どもを大切に思い、真摯に教育活動に取り組んでいる状況を評価していただいているものと考え。</p>	<p>第 1 回 (H29. 6. 22)</p> <p>○ NO 残業デーの実施状況は？ ・意識は高まっているが、曜日変更等、教職員にアンケートを取り改善していく予定。</p> <p>○ 交流教育について、現在高等学校との交流を進めているとのことであるが、小・中・学部も同世代で実施できるとよいのでは？ ・現在は居住地校交流も行っているが、小学部、中学部も同世代の学校と交流を年に複数回実施している。</p> <p>○ ICT 機器やスパイダー等の導入は素晴らしいことだが、機器ありきではなく、子どもの実態が最優先になるようにしてほしい。 ・実態把握は自活部、授業研究は研究部といった分掌を超えて、研究 PJ 等において協議を行い、子どもの実態を踏まえた教育活動の展開をめざしたい。</p> <p>第 2 回 (H29. 11. 24)</p> <p>○ 学校公開の時期について、2 月でないといけないのか？年度始めの方が有難いが。 ・2 月は作品展と授業参観があり、それに合わせて福祉事業所対象の学校公開を行っている。今後検討したい。</p> <p>○ 他校では福祉事業所が学校の体育館で説明会を開いていると聞いたが？実施するなら P T A と福祉が中心で学校が支える形がいいのではないかと。 ・地域、社会に開かれた学校を目指して、今後検討していきたい。</p> <p>○ 地盤沈下等、施設の状況は安全であるか？ ・教育庁に要請し、適宜調査をすすめている。</p> <p>第 3 回 (H30. 2. 9) 実施</p> <p>○ 校内で取り組んでいる研修等について、教職員が研修している様子などもホームページにアップしていくようにする必要があるのでは。今後検討して欲しい。</p> <p>○ 学習指導要領改訂に伴い、アクティブラーニングなどによる考える力や自己決定などの身に着けるべき力を整理することが大切である。</p> <p>○ 教職員向け学校教育自己診断アンケートの回答数が少ないので、職員に今後もっと声かけをしたい。設問に具体性がある方が良いという意見もある。ホームページを見る保護者が少ないことについて、学年だより等でも見て頂けるよう呼びかける。動画などもアップされればうれしい。学校日記をトップページに置く等、工夫が必要。</p> <p>○ ポッチャについて、推進委員会を立ち上げ、2 月 17 日 (土) の大会出場に向け取り組んでいる。今後は地域への講習会の実施や小中学生などとの交流も考えている。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 主体的な学びを大切にする学校</p>	<p>(1) 児童生徒の実態を的確に把握して個別の指導計画を作成し、日々の授業に繋げる。</p>	<p>(1) ア これまでの研究成果をもとに、実態把握確認票【肢】、学習進度連絡票【病】を作成する。 イ 子どもの実態に応じた個別の指導計画の目標を設定する。</p>	<p>(1) ア 【肢】実態把握確認票（小学部は1、4年生、中・高等部は1年生）を作成する。 【病】学習進度連絡票を退院児童生徒について作成する。（研究部、自立活動部共同で行う。） イ アが個別の指導計画の目標設定、授業に活かされているか各学部、グループ会議、研究PJ、カリキュラム・マネジメントPJ等で検討、評価し、PDCAサイクルを確立する。</p>	<p>(1) ア【肢】4つのアセスメントを行い、当該学年について実態把握を行った。(○) 【病】学習進度連絡票は、退院児童生徒について作成している。(○) イ【肢】実態把握の結果を用い、担任が個別の指導計画の目標設定について妥当かどうかの検討材料とすることはできたが、評価については充分ではない。適切にアセスメントの解釈ができる教員の養成が今後の課題である。(△) 【病】連絡票及び個別の指導計画により、前籍校への引き継ぎがスムーズにできている。(○)</p>
	<p>(2) 学習指導要領の改訂を見据え、教育課程を編成する。</p>	<p>(2) ア 指導教諭、教務主任を中心に、PDCAサイクルのもと、カリキュラム・マネジメントPJ会議、教育課程検討委員会で教育課程の見直しを行う。 イ 児童生徒の卒業後の生活をイメージした体験活動を実施し、地域の関係機関等と連携して情報収集及び情報発信に努める。 ウ 本校のキャリア教育について検討を行う。</p>	<p>(2) ア 定期的なカリキュラム・マネジメントPJ会議、教育課程検討委員会を開催し、協議内容を職員会議において伝える。 イ 児童生徒の体験実習報告会を行う。施設・作業所研修会（教職員、保護者対象）を実施し進路指導に活かす。年間3回「進路便り」を発行する。学校公開（事業所対象）1回実施する。 ウ キャリア教育計画表の検討、作成と評価を行う。</p>	<p>(2) ア カリキュラムマネジメントPJでは教育課程上の課題を中心に検討し、会議以外の日にも複数回集まり熱心に協議を行った。それを踏まえ教育課程検討委員会において来年度の教育課程について編成を行っている。学習指導要領の改訂については、職員会議で管理職より周知し、必要に応じ指導主事による研修を行った。評価の主体や方法については今後も検討が必要。(○) イ 実習報告会を行い活動の様子を掲示し、保護者にも分かり易く発信することができた。また、進路便りを予定通り発行した。学校公開は2月に実施し、約150人の参加があった。 ウ キャリア教育計画表を作成した。また、箕面支援学校に訪問し、先進的な取組みについて情報収集した。2月に箕面支援学校より講師を招き校内研修会を行った。(○)年間指導計画等の充実に向け、今後更に検討を行っていきたい。</p>
	<p>(3) 自立活動における指導の充実を図る。</p>	<p>(3) ア 【肢】スパイダーに関するマニュアル作りと実践事例の積み上げを行う。 イ 【病】平成26年から取り組んでいる「つなぎ支援」の研究をさらに進める。 ウ 実態に応じた教材教具の活用をさらにすすめる。</p>	<p>(3) ア 【肢】マニュアルの完成と実践事例報告会を行う。 イ 【病】ICT機器を活用したつなぎ支援の実践を蓄積するため、ICT活用事例・教材紹介をHP等で発信する。各分教室と訪問教育をつなぐ交流授業を年2回実施する。 ウ 教材の整理と活用の手引書を作成する。</p>	<p>(3) ア 【肢】スパイダーによる指導を行える若手教員を増やすことが出来た。岸和田支援学校より講師を招き、実践場面の指導と助言をいただいた。3月に校内で実践報告会を行った。昨年度より多数の事例を検証できた。(○) イ 【病】HPに活用事例・教材紹介のページに順次掲載している。交流授業は11月と3月に1回ずつ実施し、各分教室等をつないでゲームを行い交流を深めた。 ウ 「感覚と運動の高次元化理論」に基づき教材を分類した。参考のため、自立活動部員が奈良養護への見学を行った。手引きカードの作成については検討中である。(△)</p>
	<p>(4) ICT機器を活用し、コミュニケーション力の育成を図る。</p>	<p>(4) ア タブレット型PCや視線入力ソフト等を活用した授業の研究を行う。個々の実態に応じた学びの形を探り、見る力・聞く力の育成を図るとともに、児童生徒が主体的に発信する意欲を養う。</p>	<p>(4) ア ICT機器を活用しての授業研究を行い、ICT研修会で各学部の実践報告会を行う。また、その内容についてHPで紹介する。</p>	<p>(4) ア 1月の実践報告会では、スイッチやPCの活用授業、視線入力装置の活用実践、交流授業における動画通信等について全教職員向けに報告、共有した。またその様子についてHPで公開している。(◎) 今後は活用例を積み重ね、自活部等とも連携し、全児童生徒の適切な支援方法を更に深めたい。</p>

<p>1 主体的な学びを大切に する学校</p>	<p>(5) 教育活動全般において、命の大切さや自他を思いやる心を育て、自尊感情を高める。</p>	<p>(5) ア 教育活動全般を通して、友だちと共に集団で活動し、表現する喜びや達成感を味わう。 イ 水耕栽培を通して、野菜の成長や収穫する喜びを味わう。 ウ 学期に1回読書週間を設け、読書や読み聞かせ活動を行い、読書の習慣を定着させるとともに、豊かな心を育てる。 エ 校内や病院内の壁面等を活用して作品を掲示し、自尊感情を高める。</p>	<p>(5) ア 学習発表会、作品展、運動会の開催。(保護者対象アンケートでその成果に関する肯定的回答率を85%以上にする。) イ 年3回の収穫を目標に、子どもが主体的に取り組み、その様子をHPで紹介する。 ウ 読書週間の成果を掲示物や図書日より、HPで発表する。 エ 個人・グループ作品の展示を学期に2回以上替える。</p>	<p>(5) ア 学校教育自己診断の「各学校行事は参加しやすい様工夫されている」という問いや各行事アンケートでは、90%以上が肯定的回答であった。(◎) イ 栽培準備から仕分け作業まで、子どもに役割を持たせ責任感をもって活動できている。(○) 今後はHPによる紹介の頻度を高めたい。ウ 読書週間は年3回行い、「本のムシ」という図書日よりを発行した。図書室の整備に努め、新書の購入等、充実を図った。(○) エ 【肢】校内掲示を2か月毎に更新し、作品や各学部の学習の様子など掲示した。【病】掲示板に生徒の作品を毎月掲示し、HPで紹介した。(○) 教員や友達からの賞賛により自尊感情を高める機会とできた。</p>
<p>2 安全で安心できる 学校</p>	<p>(1) 保護者、地域関係機関と連携した防災マニュアルの継続的な検討を進め、その対策を検討する。</p> <p>(2) 常に「いのち」を意識した教育活動を行うよう危機管理意識の向上を図り、重大事故〇に備える。</p> <p>(3) 個人情報を通正に管理する意識を高める。</p>	<p>(1) ア 大災害に備えてPTAや地域関係諸機関と連携し、より実的な防災マニュアルの作成について更なる検討を進める。 イ 地域の消防署や警察と連携し、避難訓練等、防災教育の充実と防犯・地震・津波に対する校内体制を確立する。 ウ 児童生徒個人の非常用持ち出し袋と災害物資を定期的に点検し、さらなる充実を図る。</p> <p>(2) ア ヒヤリハットの確実な報告と対応の迅速化を図る。(日常的、医療的ケアにかかわるもの) イ 学校医、主治医、学校看護師と連携し、個に応じた医療的ケアマニュアルの確実な把握と共有化を図る。 ウ 学期はじめに全児童生徒のバイタルチェックを行い、記録する。 エ 近隣の消防署と連携し、本校の応急手当普及員による救急救命訓練と心肺蘇生法研修を実施する。 オ、救急物品の点検と整備を行う。</p> <p>(3) ア 個人情報取扱いのガイドラインを定期的に確認する。 イ 校内における個人情報漏洩の危険性について更に検証し、具体的な対策を検討する。</p>	<p>(1) ア 防災PJ会議を学期に1回開催し、PTAや地域関係諸機関と年2回以上検討を行う。 イ 消防署や警察と連携して防災訓練、防犯訓練、地震・津波訓練、防災教育を実施し、具体的な助言を受ける。 ウ 必要な災害物資のリストアップと追加を行う。(保護者対象アンケートでその成果に関する肯定的回答率を75%以上にする。)</p> <p>(2) ア ヒヤリハットの毎月の分析と共有。月1回の職員会議で昨年の同時期での事例報告と学校医の注意喚起を具体的に示す。 イ マニュアル作成時に健康相談、主治医面談で確認、医療的ケア委員会で共有。 ウ 年3回「健康観察強化週間」の実施。 エ 各学部年間2回救命救急訓練、年間1回心肺蘇生法研修。 オ 月に1回点検。 (ウ、エ、オの様子についてHPや学校だよりで保護者に紹介し、「安全で安心できる学校」に関する保護者対象アンケートの肯定的回答率80%以上をめざす。)</p> <p>(3) ア 職員会議で学期に1回以上確認、チェックリストによる状況把握を行い、共通理解を図る。 イ 各学部、分掌で学期に1回具体的に個人情報を扱う状況において漏洩の危険性が無いか検証、意見交換を行い、学校経営会議で検討、職員会議で共有する。</p>	<p>(1) ア 学期毎に会議を行い、地域と避難所開設の打ち合わせを行った。大規模災害時初期マニュアルを作成した。(○) 来年度のマニュアル検討に生かしたい。 イ 関係機関と事前に打ち合わせを行い、訓練の様子について詳細な講評を受け、反省につなげた。教職員対象の研修も行った。(◎) ウ 学期毎に点検し、保護者の協力のもと物資の入れ替えを行っている。また、教職員用ヘルメットや災害用品等の購入を行った(○)。保護者アンケートの関係設問は66%の肯定的回答率であるが、情報の発信不足と考えられるため、今後改善したい。</p> <p>(2) ア 分析と共有、事例報告等確実に行い、医ケアに関するものは学校医からの指導を仰ぎ、改善につなげている。(○) 今後、医ケア以外のものについては、インシデントとアクシデントの境界について、更に協議する機会をもつことが必要である。 イ マニュアル作成時に健康相談、主治医面談で確認、医療的ケア委員会で共有した。(○) ウ 各学期始め5日間をバイタルチェック週間とし、全児童生徒の体温や脈拍、血中酸素飽和度を計測している。(○) エ 4日間、全教職員を対象に応急手当普及員による心配蘇生法を実施した。各学部救急救命訓練を2回実施し、緊急の対応について確認した。(○) オ 月1回保健主事を中心に、吸引器や各機器の電池切れ・動作確認等を確実に行うことができた。(○) ※ウエオについて、保護者アンケートの関係項目について肯定的回答は約70%に留まっているが、確実に実施しており、情報発信方法に今後工夫が必要かと思われる。</p> <p>(3) ア 個人情報についての確認は職員会議のみならず職員朝礼等において行い、管理職、各学部主事等より常々注意喚起を行っている。(○) イ 各学部、分掌、委員会等において「個人情報適正管理シート」を作成、管理状況を把握し、学期に1回点検・確認を行った。(○) 学校経営会議においても他校の事象等を確認・検討し、本校における改善につなげた。(○)</p>

<p>2 安全で安心できる学校</p>	<p>(4) 施設設備面、労働安全面の課題について共通理解を図り、改善に努める。</p>	<p>(4) ア 毎週の校内巡視。関係機関と連携し迅速な対応及び対策を行う。 イ 「全校一斉退庁日」を週1回設定し、教職員の長時間勤務の縮減を図る。</p>	<p>(4) ア 校内巡視票の点検を月1回行い、速やかに改善を図る。 イ 週1回、設定しやすい曜日を検討して呼びかけ意識を高める。個々の状況について年に2回アンケートを取り、実施できない場合の原因を探る。具体的な改善策を安全衛生委員会、学校経営会議で検討、改善に努める。</p>	<p>(4) ア 法令に基づき月1回巡視を行っている。安全衛生委員会において改修すべき箇所を報告し、できる所から速やかに修繕するよう努めている。(○) イ 「全校一斉退庁日」については、実施しやすい曜日を検討しつつ実施し、意識の高まりが感じられた。アンケートは、内容が濃いものとなったため1回の実施に留まったが、率直な意見を洗い出すことができ、分析に努め、会議の精選等、徐々に改善を図っている。(○)</p>
<p>3 地域に開かれた学校</p>	<p>(1) インクルーシブ教育の推進に向け、地域のセンター校として組織的な支援体制を整備し、地域の学校園へ情報発信する。</p>	<p>(1) ア 本校が支援できる相談内容を具体的に示し情報発信する。 イ 特別支援教育の現状と動向を踏まえ、タイムリーで実践活用につながる講座を提供する。 ウ 「支援機器等教材を活用した指導方法」についての事例を引き続き情報発信する。 エ ねらいを明確にした計画的な交流及び共同学習、学校間交流を実施する。 オ 地域支援部内で支援方法や支援の方向性を検討し、有効な支援を実施する。 カ 通学地域で開催されるコーディネーター連絡協議会に参加し、引き続き相談しやすい関係づくりを構築する。 キ 地域の関係機関と連携し、「なんでも相談会」を開催する。 ク 地域の学校園の「困り感」を理解し、適切な支援ができるよう人材の育成を図る。</p>	<p>(1) ア 支援相談リーフレットを作成してHPにアップすると共に、地域の小中学校、高等学校（私立含む）に配付する。 イ 夏季休業中に公開講座を開催し、地域の学校園教職員の参加30名以上をめざす。 ウ 事例研究を続け、その成果を3例以上学校HPにアップする。 エ 交流シート（本校作成）を活用し交流校とねらいを共有、計画的に実施する。 オ 支援相談した学校園に「支援振り返り・評価シート」を配付し、支援の有効性を検証して改善を図る。 カ 年3回開催される会議に参加し、リーフレットを配付する。 キ 相談会の開催について周知する機会を増やし（HP、リーフレット等）、年10回開催する。 ク 引き続き、地域支援スタッフ2名以上の養成をめざし、校内体制の整備を行う。</p>	<p>(1) ア 支援相談リーフレットを作成しHPへ掲載、リーフレットのダウンロードもできるようにした。またリーディングスタッフ広域グループで作成した病弱教育の相談リーフレットと合わせて、全市校園へ一斉送信し周知した。私学への周知についてはリーディングスタッフ大阪市ブロック会議で問題提起し、教育庁とブロック全体の検討課題とすることとなった。2学期末で前年の相談件数を上回っており周知活動の成果が表れている。(◎) イ 夏季公開講座として「放課後等デイサービスとの連携」「子どもの姿勢」「ICT機器体験会」「ICT機器活用実践報告」の4講座を開催。支援相談区域内の幼小中教員92名の参加があった。事後アンケートの実践で活用できるかとの問いに対する肯定的回答が85%で、ニーズに合った講座が提供できたといえる。(◎) ウ 実践報告会の内容をHPにアップし広報に努めている。実際に、視線入力装置の活用方法等の支援依頼もあった。(○) エ 小中学部の居住地校交流、小中高等部の学校間交流において交流シートを活用して、互いのねらいや目標を共有し計画的に実践することができた。共同学習の視点を重視した取り組みを進めることができた。(◎) オ 相談が終了したケースごとに「支援振り返り・評価シート」を送付。現在、回収中で集計するとともに支援の有効性について部内で検証していく。(○) カ 協議会へ参加しリーフレットを配布。依頼の手順等を説明し、依頼しやすい環境づくりに努めた。(○) キ 相談会の開催についてHP、リーフレット等により周知する機会を増やし、予定どおり年10回、開催している。また、同日に併せて保護者の「座談会」も行えるようにし、相談しやすい環境づくりに努めた。(○) ク 支援相談経験のない教員2名が計9回、経験のある教員に帯同し、聞取りや授業参観、支援方針の検討など一連の相談業務を担い自身のスキルアップに努める機会を設けた。(○)</p>

<p>4 チームで協働できる学校</p>	<p>(1) 教職員一人ひとりが自己の果たす役割を意識し、個々の良さや強みを活かした活気ある学校をめざす。</p> <p>(2) 教職員一人ひとりが「学び続ける」意識をもち、支援学校の教員として、より高い専門性に基づいた教育をめざす。</p>	<p>(1) ア 校長として学校経営の方向性を示し校務運営の中核となる人材の育成を図る。 イ 自立活動、進路指導、実態把握に関する知識が豊富で指導力のある教員3名をフリーとし校内支援体制の充実を図る。 ウ 首席が各学部運営の指導及び助言を行う。 エ 児童生徒の対応や保護者対応、地域関係機関との連携、クラス運営等、学部主事を中心に主担任連絡会を実施する。</p> <p>(2) ア 教職員の授業参観週間を設け、授業力改善研修会を実施し、授業力の向上を図る。 イ 研究授業の際、研究授業者が課題と感じている点をオーダー表とし、評価会の進め方を工夫し授業改善につなげる。 ウ 校内実践交流会を開催し、各分掌、学部、委員会、PJ等の教育実践について評価を行い、共通理解を図り、改善に繋げる。 エ 研究テーマを設定し、校内研修を系統的、計画的に実施する。</p>	<p>(1) ア 校長、教頭、事務長、学部主事、首席、指導教諭で月2回学校経営会議を開催。各分掌に副部長を置き、部長の補佐を行う。分掌部長から管理職への報告を部会記録と共に行い、進捗状況について確認、共通理解を図る。 イ 在籍児童生徒30%以上に対し、日常的な支援を行う。(教職員対象アンケートにおいて「支援相談シートによる支援への満足度」に関する項目の肯定的回答率を70%以上めざす。) ウ 各学部の状況について首席より管理職への報告を随時行い状況把握に努める。 エ 月1回開催し、首席、管理職が記録等により報告を受け、状況把握、助言を行う。</p> <p>(2) ア 研究PJの企画により年間1回設け、参観した授業について教科・グループ毎に意見交換を行う。 イ 「授業改善点検証シート」を作成、検証する。(ア、イについて、教職員対象アンケート等を活用し、優れた授業や改善点を記録し、職員会議等で共有化を図る。) ウ 年1回開催し、記録を紀要等で発表する。併せて外部研修参加者の伝達講習を行い、資質向上を図る。 エ 指導教諭を中心に研究PJを設置し、月1回会議を開催する。学校経営計画を見据えた研修の計画と精選、検証を行う。</p>	<p>(1) ア 第1水曜に学校経営会議A(学校経営の重点に関する問題提起)、第3水曜に学校経営会議B(校内の諸課題に関する問題提起・学部情報交換)を実施した。今年度より月に2回実施したことで、諸課題に対して早急に対応し、協議を深めることができた。分掌部会後に部長(もしくは副部長)から会議の要旨について報告を受けることで、課題や学校経営計画についての進捗状況を確認することができた。(○) イ 12月現在通学籍児童生徒(担当教員)の56%に当たる60名に何らかの支援を行なった。車いすや歩行器、プロンボード等の簡単な調整、車いす上での姿勢、移乗、自立活動の指導方法等を日常の支援として支援シートなしで行なった。(○) ウ 各学部に首席を配置した。学部の状況を学部主事とともに適宜報告があり、状況把握することができた。(○) エ 情報共有、課題整理を行い、各学部内で意思統一を図っている。日々学部主事がクラスを巡回し、細かく状況把握することで、迅速な問題解決を行うことができた。(○)</p> <p>(2) ア【肢】授業参観週間を9月26日～10月13日に設定した。保護者向け授業アンケートによると、日頃触れることができない他学部の授業を参観する貴重な機会となったとの意見も多かった。また、授業参観週間を受けて、授業参観交流会も開催した。(○)希望する授業の参観ができない等、課題もあり、来年度の実施にあたり設定に今後も検討の余地があるが、他学部の実践を知る貴重な機会として今後も実施する必要がある。個々の授業に対する意見交流は、授業改善にも欠かせないため、次年度以降には双方が対面できる交流会を設定したい。(○) イ 研究授業については、年度初めに管理職と指導教諭が主となって企画し評価会を行うこととしたため、シートの活用や実施の体制について大幅に変更を行った。指導教諭の進行、指導により、初任者を中心に、関係教員によりポイントを絞った活発な意見交換が行われ、授業改善への意識を高めることができた。(○) ウ 8月31日に授業実践交流会を開催、各学部の報告と、ディスカッションで構成した。ビデオ等を使用した具体的な報告で、好評であった。ベテラン教員からの助言もあり、アンケートでは有意義であったとの意見が多かった。実践交流会の記録は研究紀要に掲載予定である。近肢研夏期研修会、近肢研研究協議会、全肢研等の伝達講習を職員会議に併せて実施した。(◎)病弱部門関係では3学期に伝達講習会を計画している。 エ 11月まで月1回開催した。学校経営計画を踏まえ、今年度の研修の計画と精選について意見交換し、研究部が計画案を取りまとめた。また、学校教育目標を受け研究テーマを設定した。(○)系統的な研修の実施に向けた検討を進めていきたい。</p>
--------------------------	---	---	---	---